

富岡市一之宮貫前神社周辺の林におけるキノコの生態調査

群馬県立富岡高校 1年 佐藤丈生

1 はじめに

キノコは、樹木や気候などの条件により発生する種が異なる。それは、その土地ごとの環境に大きく左右され、もっとも適した環境に生息しているからだと考えられる。キノコのフィールド調査はまだ行われていない土地が多く、わからないことも多い。私は自然史博物館のキノコの収蔵リスト見て貫前神社周辺の林の標本資料がほとんど無いことを知った。貫前神社周辺の林は、樹齢年数の多い広葉樹や針葉樹が生育していることから、多様なキノコの発生が期待できると考え、調査地に設定した。

2 調査内容

キノコは肉眼で確認できる大きさのものを調査対象とした。調査は遊歩道や林内を可能な限り散策した。キノコの発生を確認したらまず、生体の撮影および、キノコができていた環境を記録した。その後、基質の一部とキノコと一緒に採取した。林内を散策しながら、発生が確認できたキノコ全てを採集した。採集したキノコは乾燥標本としたが、種によっては乾燥前の形状や色が大きく変化してしまうものがある。そのため、後でキノコの同定の資料となるようにキノコの全体の様子だけでなく、ヒダの形状が分かるように生体を撮影した。一回の調査で要した時間は約2時間である。今回の調査では全11回の調査を行うことができた。

- ・第1回 2013年6月29日
- ・第2回 2013年7月13日
- ・第3回 2013年7月26日
- ・第4回 2013年8月7日
- ・第5回 2013年8月31日
- ・第6回 2013年9月14日
- ・第7回 2013年9月28日
- ・第8回 2013年10月12日
- ・第9回 2013年11月2日
- ・第10回 2013年11月16日
- ・第11回 2013年11月30日

3 調査結果

全11回の調査結果から、56個体のキノコが採取できた。採集したキノコを科ごとにまとめたのを表1に示す。表1から、一番多く採集できたのはキシメジ科で10個体であった。次にハラタケ科、サルノシカケ科で7個体、次がベニタケ科で5個体であった。表2は採集した標本の数を採集日ごとにまとめたものである。第6回の2013年9月14日の採集が他の調査日に比べ多くのキノコが採集できた。

調査の結果得られた標本の数(科ごと)

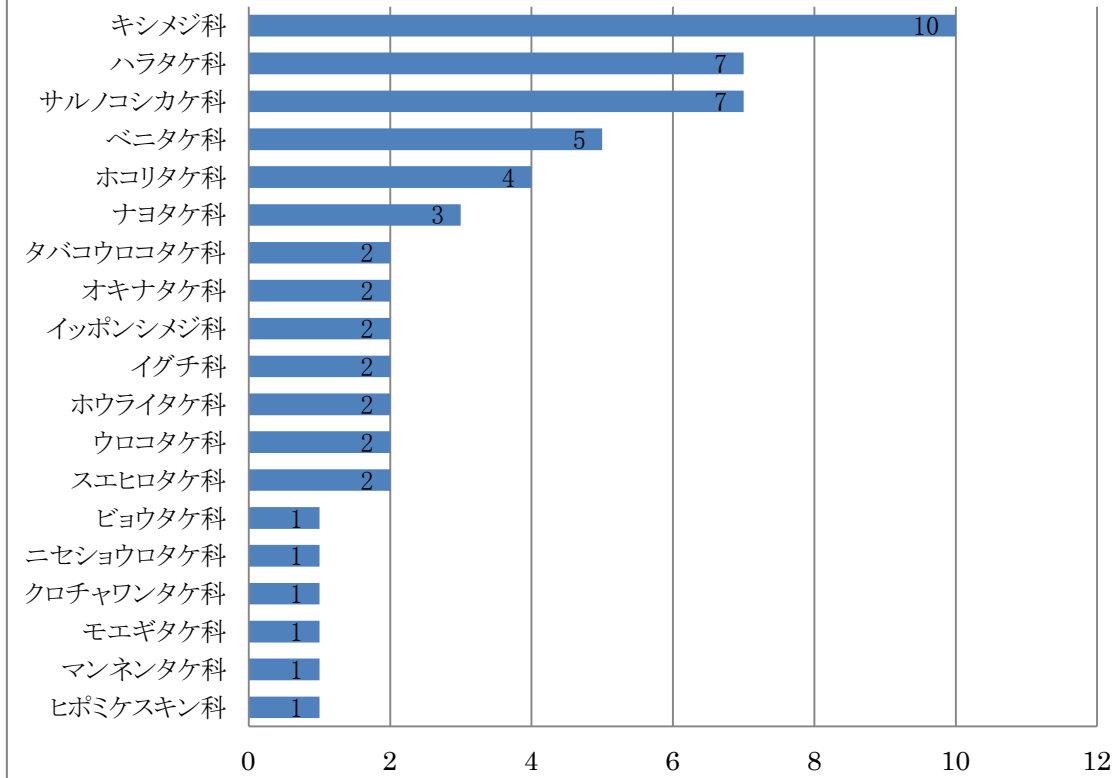


表1 採集したキノコを科ごとの集計

調査の結果得られた標本の数(調査日ごと)

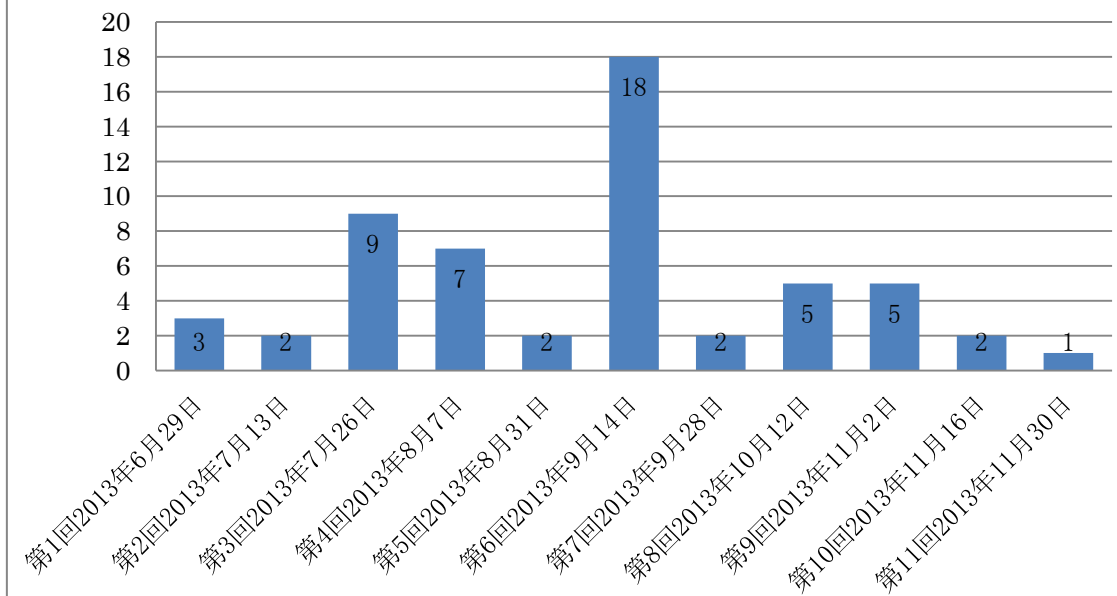


表2 調査日ごとの採集個体数

4 考察

まず、調査地は広葉樹と針葉樹の両方が混生する林相である。そのため、多様なキノコを採取できるだろうと考えていたが、圧倒的に広葉樹が多く針葉樹の数は少なかった。そのため、針葉樹に発生するキノコは、キシメジ科のスギヒラタケ1種のみであった(写真1)。スギヒラタケは名前の通り、スギ等の針葉樹の倒木などに夏から秋にかけて発生するキノコである。また、それとは別にこの調査地ならではのキノコの発生も見られた。それはイグチ科のアカジコウである(写真2)。このキノコは、針葉樹・広葉樹の混生林内に夏から秋にかけて発生するキノコである。このキノコはこの調査地の針葉樹・広葉樹混生林という特徴を表していると考えられる。

次に、科ごとに集計した表1からは、一番多く採れた科はキシメジ科だった。キシメジ科は、キノコの形態に共通の特徴が無く、多くの属を含んでいる。そのため、キシメジ科に分類されるキノコは多く、科の集計結果においても最も多く採集されたと考えられる。また、キシメジ科に含まれるキノコは林相に囚われない種や、広葉樹に発生する種が多い。この調査地は広葉樹が多い林なのでキシメジ科が多かったのではないかと考えられる。一方、樹木と共生関係にあるイグチ科のキノコも多く発生する可能性は十分に考えられるが、調査結果からはイグチ科のキノコの発生は少なかった。

調査日ごとの採集個体数を表した表2、キノコとして成熟した個体を表している。第5回の2013年8月31日や第7回の2013年9月28日はどちらもその3日前に降水があった。降水から3日という期間だったせいか、採集できたキノコは発生間もない小さなキノコが多かった。未成熟のキノコは同定するのが難しく、採集記録には入れていないため、他の調査日と比べて数が少ない結果となった。第6回の2013年9月14日に行った調査で得られた標本の数が一番多いことが分かる。他の実施日と比べてもかなりの差がある。これは、調査日の6日前に十分な降水があった。その結果、キノコ発生の好条件が重なったため多くのキノコの発生がみられたと考えられる。今回の調査では、今まで定期的に調査されていなかった貫前神社に発生するキノコの発生について基礎的な情報を収集することができた。

5 感想

今回の調査研究で一之宮貫前神社周辺の林に発生するキノコを知ることができた。普段何気なく通りすぎてしまう林の中にこんなにも沢山の種類のキノコがあることに感動した。キノコについての知識はまだ未熟だが、以前よりは確実に増えていると思う。気になったことは天候がキノコの発生にどう影響しているかである。採集日ごとに採れたキノコの数にかなりのばらつきがあったため気になった。反省点はキノコの写真を同定に必要な枚数撮れていないことが少なからずあったことだ。そのせいで同定不可能になってしまったキノコもあった。

今後の課題は、継続的に調査を続けていくところである。キノコの調査は数年かけて行わなければその地に発生するキノコの種類を正確に分からないという。調査を続けていけばこの土地のキノコの生態について詳しく知ることができると感じた。

6 採集したキノコのリスト(採集日順)

採集日	資料名	科名
20130629	ネナガノヒトヨタケ	ナヨタケ科
20130629	ヒビワレシロハツ	ベニタケ科
20130629	アシグロタケ	サルノコシカケ科
20130713	ホウロクタケ	サルノコシカケ科
20130713	シロハツ	ベニタケ科
20130726	ホウロクタケ	サルノコシカケ科
20130726	スエヒロタケ	スエヒロタケ科
20130726	モリノカレバタケ	キシメジ科
20130726	モミジウロコタケ	ウロコタケ科
20130726	アシナガタケ	キシメジ科
20130726	オキナクサハツ	ベニタケ科
20130726	シロホウライタケ	ホウライタケ科
20130726	ケシロハツ	ベニタケ科
20130726	ツヤウチワタケ	サルノコシカケ科
20130807	スギヒラタケ	キシメジ科
20130807	タケリタケ	ヒポミケスキ科
20130807	アシナガタケ	キシメジ科
20130807	ノウタケ	ホコリタケ科
20130807	クシノハシワタケ	ウロコタケ科
20130807	アシベニイグチ	イグチ科
20130807	キイボカサタケ	イッポンシメジ科
20130831	ダイダイタケ	タバコウロコタケ科
20130831	ブドウタケ	サルノコシカケ科
20130914	アカキツネガサ	ハラタケ科
20130914	アカジコウ	イグチ科
20130914	オキナタケ	オキナタケ科
20130914	ムササビタケ	ナヨタケ科
20130914	シロヒメカラカサタケ	ハラタケ科
20130914	アカキツネガサ	ハラタケ科
20130914	アマタケ	キシメジ科
20130914	キツネノカラカサ	ハラタケ科
20130914	アカキツネガサ	ハラタケ科
20130914	シロヒメカラカサタケ	ハラタケ科

20130914	ビョウタケ	ビョウタケ科
20130914	ダイダイタケ	タバコウロコタケ科
20130914	キイボカサタケ	イッポンシメジ科
20130914	ハイイロナメアシタケ	キシメジ科
20130914	アラゲカワラタケ	サルノコシカケ科
20130914	カバイロオオホウライタケ	ホウライタケ科ホ
20130914	モリノカレバタケ	キシメジ科
20130914	オオシロカラカサタケ	ハラタケ科
20130928	ヒビワレシロハツ	ベニタケ科
20130928	ノウタケ	ホコリタケ科
20131012	オオイチョウタケ	キシメジ科
20131012	ヒメカタショウロ	ニセショウロ科
20131012	ツチナメコ	オキナタケ科
20131012	カワラタケ	サルノコシカケ科
20131012	ホコリタケ	ホコリタケ科
20131102	ヒメムラサキシメジ	キシメジ科
20131102	スエヒロタケ	スエヒロタケ科
20131102	ムラサキシメジ	キシメジ科
20131102	ホコリタケ	ホコリタケ科
20131102	オオゴムタケ	クロチャワンタケ科
20131116	ナヨタケ	ナヨタケ科
20131116	ニガクリタケ	モエギタケ科
20131130	マンネンタケ	マンネンタケ科

種の分類は、新装版山溪フィールドブックス7 きのこと山と溪谷社 2006 に従った



写真1 スギヒラタケ



写真2 アカジコウ

7 参考文献

- ・本郷次雄他(2006):新装版山溪フィールドブックス7 きのこと,山と溪谷社